

平成19年度 第2回 府中市男女共同参画推進懇談会
議事録

1 日時 平成19年7月12日（金）午後7時～9時

2 場所 女性センター 第1会議室

3 出席

(1) 委員

小西（厚）委員長、諸橋副委員長、打林委員、北川委員、五座委員、後藤委員、
小西（さ）委員、島野委員、平井委員、村野委員、矢島委員、吉田委員

(2) 事務局

川田市民活動支援課長、松井男女共同参画推進係長、江内田事務職員

4 傍聴者 なし

5 会議内容

(1) 開会

(2) 前回議事録の確認

承認

(3) 報告事項

男女共同参画週間の事業として、6月28日（木）に日経ウーマン編集長の麓幸子氏を招いて女性の働き方についての講演（東京都労働相談情報センター八王子事務所と共催）、7月7日（土）にはワーク・ライフバランス社の代表取締役で内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会委員でもある小室淑恵氏を招いてワーク・ライフ・バランスについての講演会を行なった。

(4) 配布資料確認

資料 1 第4期府中市男女共同参画推進懇談会 検討スケジュール（案）

資料 2 府中市における男女共同参画のまちづくりの検討について（一部抜粋）

資料 3 広報ふちゅう（6月21日号）男女共同参画週間の記事

資料 4 男女共同参画推進本部ニュース No. 23

防災 1 平成17年度 府中市地域防災計画

防災 2 女性の視点からの防災対策のススメ

防災 3 災害と女性「この視点が欠けてないか」

防災 4 災害と女性「共同参画の視点で考えるべきだ」

防災 5 災害と女性「情報ネットワーク」

防災 6 防災フォーラム「災害と女性」

防災 7 女性と火災、議会質問から見えてきたこと

防災 8 災害とその復興における女性問題の構造

※ 防災に関連する資料は今後の会議でも継続活用するので、資料の混在を防ぐため、防災に関する資料として通し番号を使用することとした。

(5) 協議事項

① 男女共同参画市民企画講座の選考について

前回会議にて、市民企画講座を追加募集することとなり、女性センター及び文化センター等で追加募集の告知を行なった結果、1企画の応募があった。

1企画だけの追加応募であり、他との比較ができないので判断が難しいが、各委員の採点評価においても低いものではなく、企画の内容も条例に関するものであり、条例に関して知ることは男女共同参画の推進に貢献するものであるため、結論としては、実施することが望ましいということとなった。

② 今期の検討内容について

事務局より、資料1の今期の検討スケジュール（案）についての説明あり。

20年度の予定にある「実績報告書のヒアリング」については、第3期推進懇談会から「推進状況報告書の評価のあり方」についての答申（資料2）があったため、現在19年度の推進本部で実績報告書の見直し作業中である。

また、第三者評価機関の機能については、推進懇談会に付加される可能性が濃厚であるが、まだ正式には決定していない内容であるため予定としている。

③ 新たな取組を必要とする防災分野における男女共同参画の推進について

事前に送付された防災資料をもとに、各委員で意見を出し合った。

主な意見について以下に記述する。

- ・ 性的事件が頻発したという記事があったが、その記事の信憑性はどうか判断するのが難しい。記事についてはデマであるという噂もあるが。
- ・ レイプ事件があるかないかは分からないが、分からないから無かったということにはならないので、なにか危険が予想されるのであれば、それを回避する手立てを検討することが必要なのではないか。
- ・ レイプ事件は、被害者が声を上げづらい事件であり、あったか無かったかは分からないのではないか。
- ・ レイプ事件があったか無かったかは、やはり重要な問題である。もしあったのであれば、しっかりと啓発活動や防止活動（自警団の組織など）をするべきであるので、情報の真贋はきちんとつかんでおく必要がある。
- ・ 災害時には、そこにいる人は極限状態になっているので、実際のところ、皆の精神

状態がどうなるかは分からないのではないだろうか。

- ・ 資料には、商業的・誇大的な側面もあるので、注意が必要である。
- ・ 一部の出来事を、全体の出来事として捉えると、全体が見えなくなってしまうことになる。これはメディア・リテラシーの問題でもある。
- ・ 民協（民生委員協議会）では、「(災害で) 一人も死者を出さない運動」をしているが、見回り体制をとっていくことが重要である。
- ・ 何かしらの訓練があっても全戸が参加しないなど、地域コミュニティが崩れつつある中で、いざという時に対応ができないだろうことは皆が感じているのではないだろうか。
- ・ 府中市は、小中学校や文化センターなどネットワークの拠点は多いので、顔見知りになる機会が多いと言える。見守りネットワークがどの程度まであるのかは分からないが、すでにあるのであれば、それを強化する方法を考えることが早道ではないか。
- ・ 障害者・病弱器具利用者などを把握しておくには、地域コミュニティを作っておくことが必要で、それらの見守り活動と一緒にDV・レイプについての被害予防活動もできるのではないか。
- ・ 地域別まちづくり方針会議などに、女性の意見を取り入れるべきだという意見もある。しかし、実際には、門戸は開いているけれども実態としては男性ばかりになっている。
- ・ 災害時の避難所では、授乳スペースなどの問題がある。
- ・ 高齢女性の死亡が多かったという記事があったが、そもそもの母体数がどうだったのかを確認しないと、高齢女性が多い地域だったのであれば、高齢女性の死亡が多いのは当然の結果とも言えるので、一概に判断ができないものである。
- ・ 府中市に関連する資料で、防災についてのパンフレットはあるのかとの意見があったため、事務局で確認をすることとした。
- ・ 推進懇談会での意見の集約について、目標とするところが曖昧であるので、それについての事務局の見解としてはいかがとの質問があった。

事務局としては、いくつかの柱立て（項目）のもとに報告書をまとめてもらえればと考えている。柱立ての例としては、「意志決定過程の場への女性の参画」「参画しやすい環境づくり」「被害にあった女性への対策とケア」などといったものが考えられる。また、「防災に女性の視点を入れる」「災害時における女性の視点」などの女性の視点についても検討をしていただければと考えている。

(6) その他

- ① 次回の会議までに、各委員で次のテーマについて考えて来ることとした。
「防災と災害時における女性の視点」

② 次回の会議日程について

日時：平成19年9月20日（木）午後7時～

場所：女性センター 第1会議室

③ その他

ア 電子メール等での情報の共有方法について

事務局で検討した結果、事務局主催のメーリングリストの作成が困難であったため、各委員から事務局に連絡があった場合（電子メール、FAX、郵送等）は、事務局が全委員に各種媒体（電子メール、FAX、郵送等）で情報を配布することとした。

(7) 閉会